

2011年（平成23年） 山のトイレを考える会 活動報告

山のトイレを考える会

1. フォーラム案内、ニュースレターを送付（2011年1月25日）

第12回山のトイレフォーラム案内とNO.11ニュースレターを会員及び関連団体へ約500通送付しました。
2. 平成23年度定期総会の開催（2011年3月5日）

第12回フォーラム開催日に定期総会を開催しました。平成22年度事業報告、会計報告、平成23年度事業計画案、予算案について承認していただきました。
3. 第12回山のトイレフォーラムを開催（2011年3月5日）

第12回山のトイレフォーラムが北海道大学学术交流会館で開催され、53名の参加者を迎えて行われました。テーマは「本州の山トイレ事情・土壌処理に学ぶ」です。

北海道ではまだ導入されていない「土壌処理方式」のトイレが神奈川県、岩手県など、全国でかなり導入されています。

今後、北海道に環境配慮型トイレを導入する時の選択肢の一つになるのではないかと、2名の講師を招き「土壌処理方式」について学びました。

【講演1】 吉田直哉氏（神奈川県自然環境保全センター 自然公園課主査）
〔演題〕 土壌処理方式の山岳トイレの維持管理（丹沢山塊）

【講演2】 岡城孝雄氏（日本環境整備教育センター 企画情報グループリーダー）
〔演題〕 山岳トイレの土壌処理技術について

※フォーラムの内容は本資料集の「第12回山のトイレを考えるフォーラムの報告(要点)」及び「第12回山のトイレを考えるフォーラム議事抄録」を参照願います。
4. 山のトイレデー案内を送付（2011年8月10日）

会員や賛助会員宛に「2011山のトイレデー案内」と第12回フォーラムの報告(要点)を約400通送付しました。
5. 山のトイレマナーガイドの印刷（2011年8月10日）

2009年に内容をリニューアルした「山のトイレマナーガイド」の在庫が無くなり、2,000部印刷しました。
6. 2011全道一斉山のトイレデー実施（2011年9月18日）

トイレデーは生憎の荒天で、日程を変更して実施したグループが殆どでした。北海道の約

20箇所の登山口でマナー袋と山のトイレマナーガイドの配布、ティッシュやゴミを拾う清掃登山を行いました。

参加者は約36名、マナー袋、マナーガイドはそれぞれ約1800枚を配布することができました。

今回も当会の活動目的の重要な柱の一つである「トイレ紙は持ち帰りましょう」を主活動とし、山のトイレTシャツを着て登山者に呼びかけました。

7. 黒岳バイオトイレのオガクズ掻き出し作業に参加（3回）

黒岳のバイオトイレは2003年9月19日に運用開始されました。オガクズを利用したバイオトイレです。電源はソーラー発電、風力発電のほか発動発電機も使え、蓄電池を備えたハイブリット自家発電です。予測最大利用者数は1日200回で4室あります。

2004年の本格的運用開始早々から利用者数が予測値を大幅に超える日が続き、オガクズのバイオ処理が追いつかず、年5回ほどのオガクズ交換を余儀なくされ、上川総合振興局はじめ関係者の大変なご苦労が続いています。

今年初めて、オガクズ交換作業に愛甲事務局長が2回（7/11、8/25）、仲俣が1回（10/5）参加しました。

8. マナー袋の全国からの送付要望に応える（2011年7月～）

当会が考案したマナー袋はトレッキングウエアの専門メーカーである（株）ムッシュ様から無償で提供していただき、山のトイレデーなどで配布してきました。

このマナー袋は全国に広く認知され、昨年同様、ムッシュ様と調整して、全国からの送付要望に応えました。

9. 幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに参加（2011年9月19日）

日高山脈ファンクラブ（樋口和生会長）主催の幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに、当会の会員も参加しました。今年は1回目7/16～18と2回目9/19（日帰り）です。

今年から幌尻山荘へ行くにはシャトルバスの利用が義務づけられ、さらに天候不良も重なり登山者が少なかったため排泄物の量はいつもの年より少なかったようです。

10. 当会ホームページ等の維持管理

当会のホームページや携帯で見ることができる「北海道の山トイレ情報」を最新の情報となるよう更新、維持管理に務めました。